

# 道路事業の再評価説明資料

〔国道8号 <sup>か</sup> <sup>が</sup> 加賀拡幅〕

（一括審議）

令和3年11月

北陸地方整備局

# 目 次

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点	P	1
2. 事業の投資効果	P	4
3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	P	5
4. 費用対効果	P	6
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P	7
6. 対応方針（原案）	P	9

別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

# 1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

## (1) 前回事業評価から事業実施状況

年度	主な経緯
平成22、25、28年度	事業再評価（指摘事項なし、継続）

## (2) 事業の進捗状況

令和2年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約350億円	約336億円	96%	約14億円
うち用地費・補償費	約195億円	約194億円	99.6%	約0.6億円

○加賀市松山町～同市加茂町において改良工事を推進中。

## (3) 今後の事業展開

○加賀市松山町～同市加茂町間（2.2km）の早期4車線開通を目指して改良工事等を推進。

【構造規格】 種級区分：3種1級、設計速度：80km/h

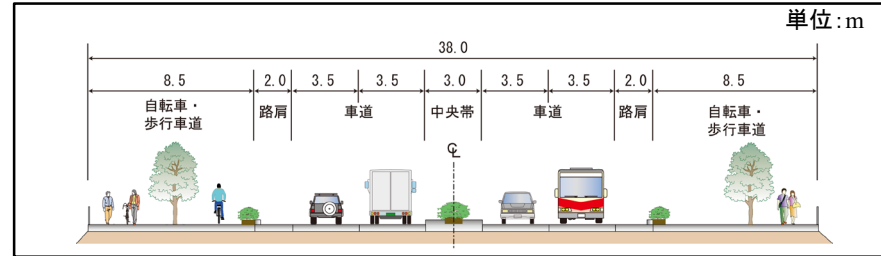


図1-3 事業中区間の標準横断面図 (A-A' 断面)



図1-1 広域図

図1-2 位置図



写真1-1 加賀市桑原町付近

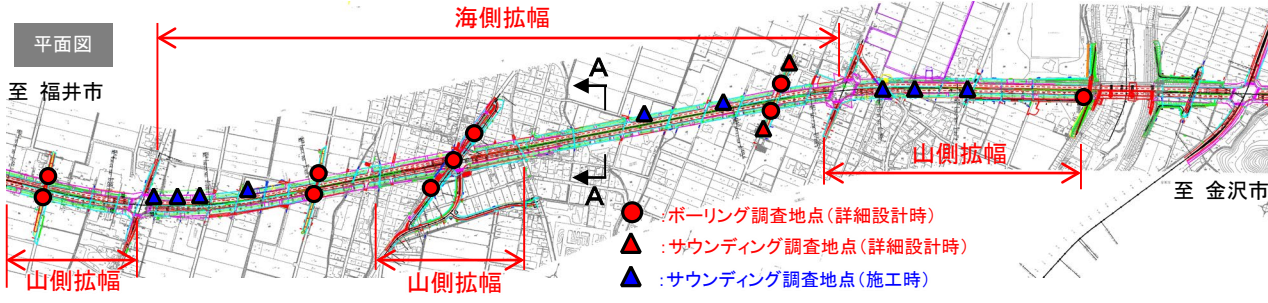
# 1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

## (4) 前回事業評価からの変更点

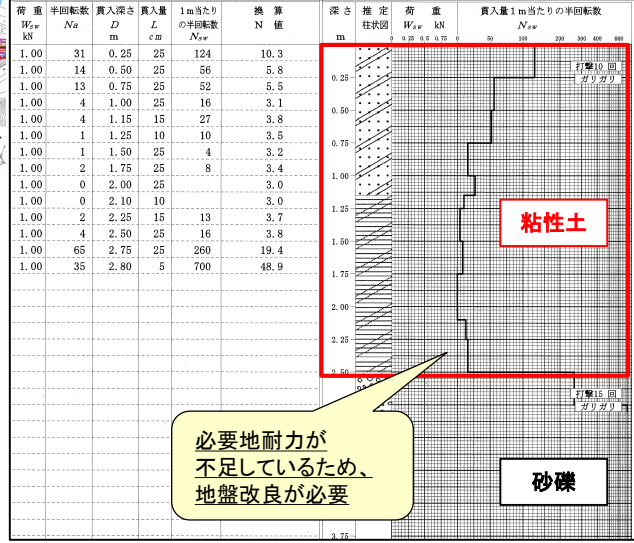
### ① 路床改良等の追加【約9億円】

○発生土を路床土として転用する計画であったが、発生土に対して試験を実施したところ、路床支持力の不足が確認され、路床の支持力を高める処置が必要となった。検討の結果、対策の中で経済性に優れる合成CBR値12を目標として、路床改良工を追加する計画に見直した。

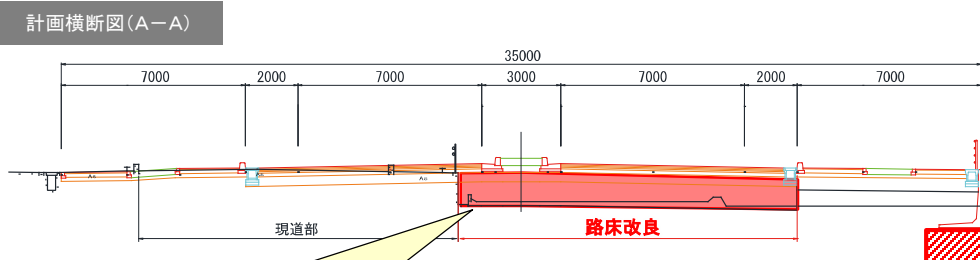
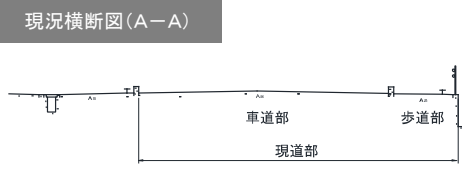
○用地取得および埋蔵文化財調査が進み、事業地内での詳細な土質調査を実施したことにより、軟弱地盤が広く確認されたため、擁壁部の地盤改良が必要となった。



(サウンディングによる支持力確認)



路床改良施工状況



路床支持力を確保するため、路床改良を実施



採取試料外観

(路床土の室内CBR試験結果)

区間 地点	車道部		
	A	B	C
C 含水比(%)	21.4	27.1	33.1
B 乾燥密度(g/cm <sup>3</sup> )	1.672	1.545	1.413
R 地点のCBR(CBR <sub>m</sub> )(%)	1.3	0.66	2.74
特性 区間のCBR(%) (CBR <sub>m</sub> の平均値-σ <sub>n-1</sub> )	0.50		

目標CBR値を満たさないため、路床改良が必要



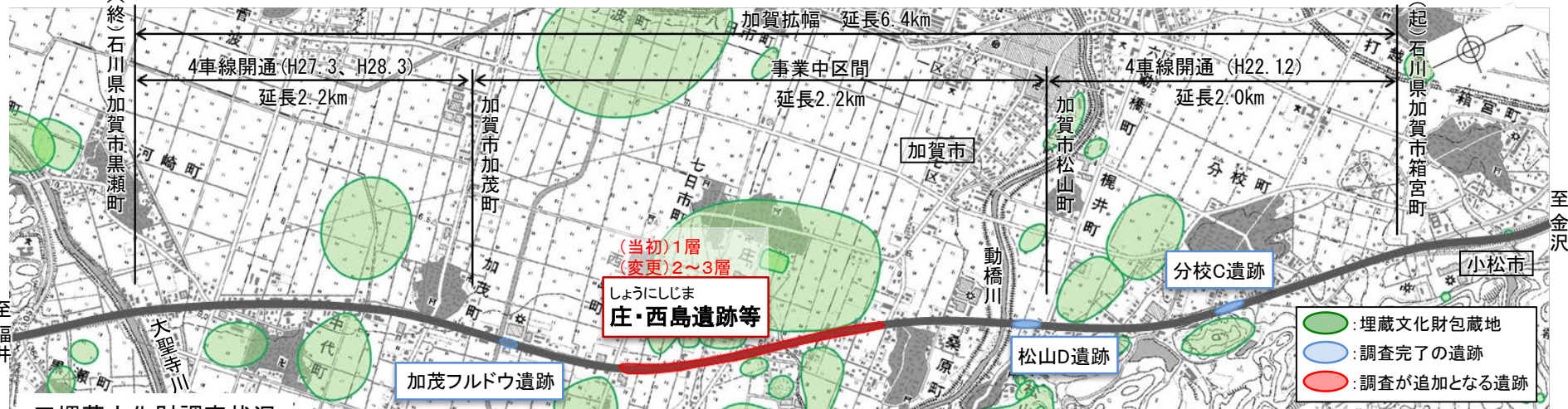
# 1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

## (4) 前回事業評価からの変更点

### ② 埋蔵文化財調査費の追加【約3億円】

- 庄・西島遺跡において、当初は近隣の調査結果を参考に、遺物包含層は1層を想定していた。
- 石川県教育委員会による本掘調査の進捗に伴い、一部区間で遺物包含層が2～3層となることが確認されたことから、当初想定より追加の本掘調査が必要となり、費用が増加した。

#### ■位置図



#### ■埋蔵文化財調査状況



【1層目】  
奈良・平安時代

- ・集落
- ・掘立柱建物
- ・土杭
- ・道路



【2層目】  
古墳時代

- ・集落
- ・河跡
- ・掘立柱建物
- ・土杭



【3層目】  
弥生時代

- ・河跡

## (5) 見直し後の事業費・事業期間

全体事業費： 約350億円 → 約362億円 (+約12億円、3%増)  
 事業期間： 20年間 → 22年間 (+2年間、10%増)

## 2. 事業の投資効果

### 事業の効果等

#### (1) 便益に係る整備効果

##### ① 走行時間の短縮

- ・加賀拡幅の整備により、円滑な走行環境が確保され、走行時間約2分の短縮及び年間約81万人時間の渋滞損失時間の削減効果が見込まれる。

##### ② 交通事故の減少

- ・加賀拡幅の整備により、年間約14件の死傷事故の削減が見込まれる。

#### (2) その他の効果

##### ① 主要観光地の連携向上

- ・令和5年度の北陸新幹線敦賀延伸開業に伴い、加賀温泉駅を拠点とした二次交通の増加が予想されることから、事業中区間の拡幅により、主要観光地への一層のアクセス向上が期待される。

##### ② 緊急輸送道路の機能強化

- ・加賀拡幅の整備により、災害時においても停車車両等の影響を受けにくい道路空間とすることで、避難車両や緊急車両の通行を確保することが見込まれる。

##### ③ 地域の医療施設へのアクセス性向上

- ・加賀拡幅の整備により、加賀市医療センターの30分圏域カバー人口が増加することが見込まれ、迅速な救急医療患者の搬送に貢献する。

##### ④ 沿道のにぎわい創出

- ・近年、一部区間の4車線供用に合わせて沿道サービス施設の立地が進んでおり、加賀拡幅の整備により、今後、国道沿線のにぎわいを活かしたまちづくりが期待されている。

##### ⑤ 地域連携プロジェクト（石川県新長期構想）の支援

- ・石川県が取り組んでいる「ダブルラダー輝きの美知（平成28年3月）」構想において、加賀拡幅は南北幹線に位置づけられている。
- ・加賀拡幅の整備は、南北に長い県土の交通ネットワークの多重化を図るとともに、北陸新幹線開業効果を県内全域へ波及させる等、当該構想の実現に大きく貢献する。

# 3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

年度： 令和3年度                      事業名： 国道8号 <sup>かが</sup>加賀拡幅

---

担当課： 道路計画課                      担当課長名： 一木 慎太郎

項目	判定		
	判断根拠	チェック欄	
事業を巡る社会経済情勢等の変化			
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	■	
前回評価からの事業費・事業期間の増加			
		増加無し	10%以内増加
事業費の増加	事業費の増加は3%(350億円→362億円)	<input type="checkbox"/>	■
事業期間の増加	事業期間の延長は10%(20年間→22年間)※開通見通しは未公表	<input type="checkbox"/>	■
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等			
費用便益分析マニュアルに変更がない	費用便益分析マニュアル改訂(H30.2)	<input type="checkbox"/>	
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	需要量等の減少はない	■	
周辺ネットワークで新規事業化がない	周辺ネットワークで新規事業化がある(牛ノ谷道路、金津道路)	<input type="checkbox"/>	
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	前回評価時における感度分析の下位ケース値が基準値を上回っている。 平成28年度評価時の感度分析の下位値 〔全体事業〕・交通量(-10%) B/C=1.6 [残事業]・交通量(-10%) B/C=3.4 ・事業費(+10%) B/C=1.8                      ・事業費(+10%) B/C=3.9 ・事業期間(+20%) B/C=1.8                      ・事業期間(+20%) B/C=4.1	■	
前回評価で資料の作成を省略していない		■	
前回評価で費用対効果分析を省略していない		■	
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	なし	-	

以上より、審議区分：**一括**      資料：**作成**      費用対効果分析：**実施**      とする。

# 4. 費用対効果

事業名	国道8号 加賀 <sup>かが</sup> 拡幅						
起終点	起：石川県加賀市箱宮町 <sup>かがしほこみやまち</sup> 至：石川県加賀市黒瀬町 <sup>かがしくろせまち</sup>					延長	6.4km
事業概要	国道8号加賀拡幅は、「交通渋滞の緩和や死傷事故の削減」「主要観光地への連携向上」「沿道のにぎわい創出」などを目的とした、延長6.4kmについて現道の拡幅を行うものである。						
平成14年度都市計画決定	平成15年度事業化			平成16年度用地着手		平成19年度工事着手	
全体事業費	約362億円	事業進捗率 (令和2年度末)	96%	供用済延長	4.2km		
計画交通量	29,800～36,600 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業) / (全体事業)	総便益	(残事業) / (全体事業)	基準年度	
	(事業全体) 1.4 (残事業) 8.7	26/522億円 事業費：14/481億円 維持管理費：11/40億円		222/727億円 走行時間短縮便益：178/621億円 走行経費減少便益：40/96億円 交通事故減少便益：4.5/11億円		令和3年度	
感度分析の結果							
(事業全体)	交通量：(-10%～+10%) B/C=1.3～1.5 事業費：(+10%～-10%) B/C=1.4～1.4 事業期間：(+20%～-20%) B/C=1.4～1.4	(残事業)	交通量：(-10%～+10%) B/C=8.0～9.4 事業費：(+10%～-10%) B/C=8.2～9.2 事業期間：(+20%～-20%) B/C=8.5～8.9				

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和元年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止めとする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。



## 5. 事業の必要性、進捗の見込み等

### 事業の必要性等に関する視点

#### 【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

- ・ 前回事業再評価時以降、需要の見込みや地元情勢など社会情勢に大きな変化は無い。

#### 【事業の投資効果】

- ・ 本事業の整備により「交通渋滞の緩和と死傷事故の削減」「主要観光地への連携向上」「緊急輸送道路の機能強化」「地域の医療施設へのアクセス性向上」「沿道のにぎわい創出」「地域連携プロジェクト（石川県新長期構想）の支援」などの効果が発揮される。

#### 【事業の進捗状況】

- ・ 事業の進捗状況：用地進捗率99.6%、事業進捗率96%（令和2年度末）
- ・ 残事業の内容：加賀市松山町～加茂町間（延長2.2km）の改良工事、舗装工事等

### 事業の進捗の見込みの視点

- ・ 用地は取得済みであり、現在までに事業は約96%が完了。平成22年度には加賀市箱宮町～同市松山町間（延長2.0km）を、平成27年度迄に加茂町～黒瀬町間（延長2.2km）を4車線化開通済みである。
- ・ 今後は早期の全線4車線化に向けて、松山町～加茂町間の改良工事を推進する。

## 5. 事業の必要性、進捗の見込み等

### コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 新技術を積極的に活用することでコスト縮減を図る。

### 関係する地方公共団体等の意見

- ・ 地域から頂いた主な意見等：地元首長および周辺市町から加賀拡幅事業の整備促進の要望を頂いている。
- ・ 知事 の 意 見：国道8号は本県における物流や広域交流の大動脈であり、加賀地域の物流の円滑化や観光産業の振興を図るうえで、極めて重要な路線であります。このうち、加賀拡幅については、加賀地域全体の交通の円滑化や隣県との連携強化を図るとともに、交通安全対策にもつながることから、早期4車線化が不可欠となっています。このため、加賀拡幅については、引き続き事業を継続するとともに、コスト縮減に努めつつ、着実に整備を進め、早期完成を図っていただきたい。

## 6. 対応方針（原案）

### 事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。